昭和大学
江東豊洲病院

クオリティインディケーター（QI）成果報告

【医療安全管理室】

指標名

転倒・転落発生率

目標：ゴール

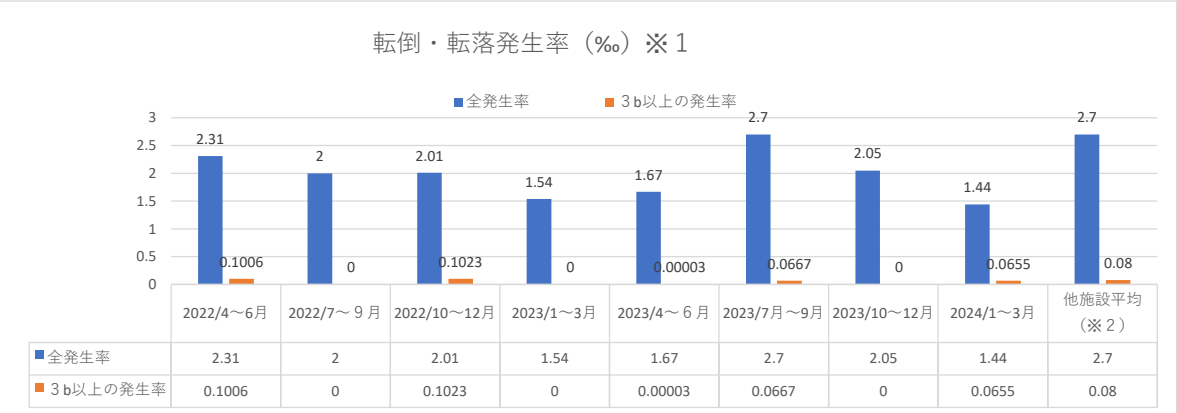
転倒・転落発生率は、病院として転倒・転落予防の取り組みを組織的・効果的に行えているかどうかの指標になります。江東豊洲病院では、他施設平均値より低い値を目指します。

目標：ゴール達成による効果

転倒・転落発生リスクを低減する取り組みを行い、転倒・転落による傷害予防につなげる

目標：ゴールに対する成果の状況

入院中の患者の転倒やベッドからの転落の原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。
転倒・転落の指標としては、転倒・転落によって患者に傷害が発生した傷害発生率（事象レベル３ｂ以上）と、患者への傷害にいたらなかった転倒・転落事例の発生率との両者を指標とすることに意味があります。
傷害に至らなかった事例を含め、分析することで、より転倒・転落発生要因を特定しやすくなり、事例分析から導かれた予防策を実施することで、転倒・転落発生リスクを低減していく取り組みが、転倒による傷害予防につながります。



	2022/4～6月	2022/7～９月	2022/10～12月	2023/1～3月	2023/4～６月	2023/7月～9月	2023/10～12月	2024/1～3月	他施設平均（※２）
全発生率	2.31	2	2.01	1.54	1.67	2.7	2.05	1.44	2.7
３b以上の発生率	0.1006	0	0.1023	0	0.00003	0.0667	0	0.0655	0.08

※１　算式：（入院患者の転倒転落件数/延入院患者数）x1,000（パーミル）

※２　他施設平均は厚労書補助事業「医療の質可視化プロジェクト」2023.6.1版参考値

目標：ゴール達成度

☐ S　　：大幅な目標を上回った
■ A⁺　　：目標を多少上回って達成
☐ A　　：目標を達成
☐ B⁺　　：目標を少し下回った
☐ B　　：目標を下回った
☐ C　　：目標を大幅に下回った
☐ －　　：外的要因より継続困難となった

目標：ゴールの課題・改善策

・入院時に全患者について、転倒・転落アセスメントを実施し、危険度レベルを判定しています。
危険度レベルに応じた対応策を計画し実施することで転倒転落の低減につなげています。
・今後も事例の振り返りを行い、入院患者が安全に入院生活を送れるように取り組みを継続します。